

第8章 授業実践事例集（ステージ1～4）

A：日本語環境に入ってから、生活に慣れはじめるまで（ステージ1～2）

◎3年 日本語「相手に伝えよう「ふやして」「へらして」ー給食場面でー」
取り出し指導（p. 90）

指導案作成・授業実践者 教諭 芦屋市立浜風小学校 西馬 由華

B：日常会話に参加しはじめる（ステージ2～3）

●1年 生活科「春の草花ビンゴ」 取り出し指導（p. 92）

指導案作成・授業実践者 主幹教諭 丹波篠山市立岡野小学校 高見 成幸

●6年 日本語「身近な人に手紙を書こう」 取り出し指導（p. 96）

指導案作成者 広島大学教育学部 学生 江副 命

授業実践者 芦屋市立浜風小学校 教諭 西馬 由華

◎6年 日本語「伝えよう！この絵本の魅力」 取り出し指導（p. 100）

指導案作成・授業実践者 教諭 芦屋市立浜風小学校 西馬 由華

C：日常会話はある程度できるが、学習内容によっては、授業に参加することが難しい（ステージ3～4）

●1年 学級活動「やさいはすごいぞ」 取り出し指導（p. 102）

指導案作成・授業実践者 丹波篠山市立岡野小学校 主幹教諭 高見 成幸

●1年 算数科「おいほう すくないほう」 取り出し指導（p. 106）

指導案作成・授業実践者 丹波篠山市立岡野小学校 主幹教諭 高見 成幸

●1年 国語科「ことばあそびうたをつくろう」 在籍学級（p. 110）

指導案作成・授業実践者 丹波篠山市立岡野小学校 教諭 細見 真理

◎2年 国語科「かさこじぞう」 取り出し指導（p. 114）

指導案作成・授業実践者 丹波篠山市立岡野小学校 主幹教諭 高見 成幸

◎6年 社会科「世界に歩み出した日本」 在籍学級（p. 116）

指導案作成・授業実践者 丹波篠山市立岡野小学校 主幹教諭 岩崎 達也

◎：概要版は p. 48～p. 55 に掲載

※中学校も小学校の指導案が参考になりますので応用させてご活用ください。

第3学年 日本語指導

1 単元名 相手に伝えよう「ふやして」「へらして」ー給食場面ー

2 ねらい

- ・食材や料理に興味をもち、食材や料理の名前、「好き・嫌い」「多い・少ない」「増やして・減らして」を理解し、自分が食べたい量などを相手に伝えることができる。
- ・絵から、増やしてほしい場面か減らしてほしい場面かをとらえ、「増やして」「減らして」を書くことができる。

3 指導計画 全1時間

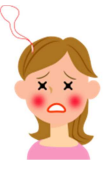
4 展開

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○学習の見通しを立てる。	・給食のデモンストレーションを行う。 ・本時の学習内容を伝える。 ・子ども多文化共生サポーターの力を借りて、母語も併記しておくなど、母語でも学習内容を理解しながら安心して授業に参加できるよう支援する。
○今月の歌を歌う。	・児童が知っている歌で楽しみながら、言葉を覚える機会にする。
○絵を見て、好き・嫌いを言う。 (1) 教師の見本を見せる。 「りんご、好き。さかな、好き。からあげ、嫌い。」等 (2) 児童に好き・嫌いを尋ねる。	・教師の見本は表情をつける。 ・助詞「は」については、児童の様子を見ながら使う。 ・テンポよく進める。 ・好きと嫌いの間を望んだ場合は「好きじゃない。嫌いじゃない。普通だね。」などと補足する。
○食べ物のビンゴゲームをする。 ・食べ物の名前が書かれたカードを1枚引き、ビンゴカードの絵と合わせ、貼る。	・読めない文字があった場合でも、絵と、読める文字から、食べ物の名前を類推することができるよう支援する。 ・教師は児童が物の名前を理解しているか確認する。 ・児童と教師が会話するようにする。
○写真や物を見て、「多い」「少ない」を言う。 (1) 教師が見本を見せる。	・量の違いがすぐにわかるような写真を用意しておく。

「ご飯、多い。サラダ、多い。スープ、少ない。」等 (2) 絵カードを「おいしい」「すくない」の categories に分ける。 (3) 分けたカードに合わせて、「○○、多い」「△△少ない」を言う。	・「聴く」→「話す」の順で学習させる。新しい言葉が自然に習得できるよう支援する。 ・一人で話すことが難しいときは、「ご飯、多い？」と一つずつ尋ね、話しやすくする。
○給食のロールプレイをする。 ・まず、教師が配膳する。配膳の際に、多め又は少なめに配膳し、児童が「多い、減らして」「少ない、増やして」「おかわり」等を言う。 ・児童と役割を変えながら練習する。	・おかずを入れる役、配る役、量の調節をお願いする役など、学校の実態に合わせて、配役を決める。 ・役割を交代し、本時の習得させたい日本語を多く聞いたり使ったりする場にする。
○ワークシートに書く。	・ワークシートは絵で状況を理解させ、使わせたい表現を書かせるようにする。

※ 板書

よてい	すき	きらい	おいしい	すくない
1 たべもの	写真	ハンバー		
2 すき きらい	りんご	グ		
3 ビンゴ	トマト	さかな		
4 きゅうしょく				
写真①	パン	サラダ		
写真②	からあげ	みそしる		



さらだ
おいしい
へらして



いちご
すくない
ふやして

B：日常会話に参加しはじめる（ステージ2～3）

1年 生活科「春の草花ビンゴ」

取り出し指導



ビンゴになっているワークシートを用いて、楽しく草花見つけをしています。春の草花への興味関心を持ち、春を代表する草花の名前や色を表す言葉を覚えていきます。

◇指導や支援のポイント

「体験」→「探求」→「発見」の学習活動を通して、春の草花の名前、色、さわった様子を表す日本語を学び、授業のまとめに、発見したことを発表します。

◇対象の児童

小学校1年生の3名。2名は学習に参加するための日本語の力が身についている。1名は来日が浅く日本語で簡単な会話をすることも難しい。日本語の語彙量にも個人差がある。

ひらがなの読み書きは習い始めたところで、読んだり書いたりできない字も多い。

◇本時の目標

- ・代表的な春の草花の名前と色を表す言葉がわかる。
- ・ひらがなを使って草花の名前を書くことができる。
- ・「〇〇がたのしかった。」「〇〇がうれしかった。」などの気持ちを表す言葉を使って、感想を発表することができる。

◇授業の流れ

- 1 春の草花見つけをする。
 - (1) 春の草花見つけのやり方を説明する。
 - ・12種類の草花の写真付きの「春の草花ビンゴ」を活用する。
 - ・草花の名前と特徴を伝え、ビンゴへの意欲が持てるよう支援する。
 - (2) 校庭や学校周辺でビンゴになっているワークシートにある春の草花を見つける。



- ・草花を見つける喜びや、自然のすばらしさを感じることができるよう支援する。
- ・草花を見つけたときには、その花の色や特徴を簡単な日本語で伝えるよう促す。
- ・ヨモギの匂いを嗅ぐなど、五感を使った体験的な活動も取り入れる。

「タンポポの花を見つけたよ。花は黄色いです。」

「ビンゴが一つできたよ。うれしいな。」



2 見つけた草花を画用紙に工夫してまとめる。



- ・見つけた草花を画用紙に見やすく美しく並べられるよう、支援する。
- ・草花の色や名前、特徴などについて、児童と対話しながら言葉の理解を促す。
- ・画用紙に貼り付けた草花の名前をひらがなで丁寧に書かせる。

児童：「この花の名前はオランダミミナグサかな。」

「この花の名前は何だったかな？」

教師：「オオイヌノフグリです。小さな青い花がきれいだね。」

児童：「チューリップの花びらは、ここにはろう。」

教師：「まちがえないように花の名前を書いていこう。」

3 春の草花見つけの感想を発表する。

- ・気持ちを表すカードを児童に提示し、その中から自分の気持ちを選択させることで、感想が発表しやすいように支援する。
- ・発表では「〇〇がたのしかった。」「〇〇がうれしかった。」などの気持ちを表す言葉を使うよう促す。



ビンゴがたのしかったです。花を見つけたときはうれしかったです。またやりたいです。



フィリピンで見たことがない花がありました。こんどヨモギだんごを食べたいです。

第1学年 学級活動 J S Lカリキュラム「トピック型」

1 単元名 春の草花ビンゴをしよう

2 ねらい

(1) 学習

- ・身近な自然に関心を持ち、自然のすばらしさに気づき、大切にすることができる。
- ・採取してきた草花を工夫してまとめることができる。

(2) 日本語

- ・代表的な春の草花の名前と色を表す言葉がわかる。
- ・ひらがなを使って草花の名前を書くことができる。
- ・「〇〇がたのしかった。」「〇〇がうれしかった。」などの気持ちを表す言葉を使って、感想を発表することができる。

3 指導計画 全2時間

- ・1時間目：草花のビンゴのやり方を知り、草花を見つけに行く。
- ・2時間目：見つけてきた草花を工夫してまとめる。

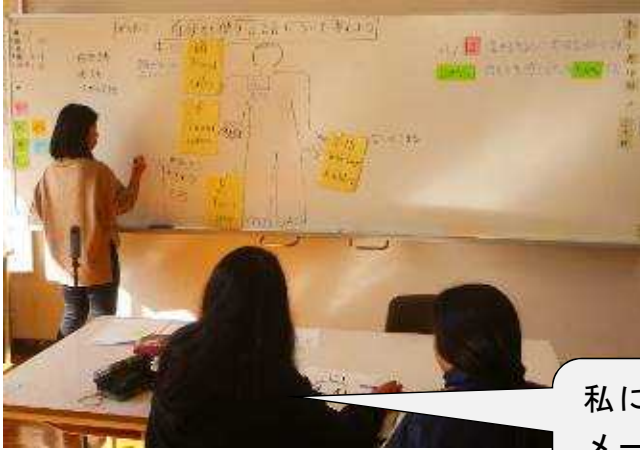
4 展開

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○春の草花見つけをする。 ・本時の見通しを立てる。 ・校庭や学校周辺で、ビンゴにある春の草花を見つかる。	・本時の学習内容を伝え、見通しを立てる。 ・児童が楽しく活動ができるように12種類の草花の写真付きの「春の草花ビンゴ」を活用する。 ・草花の名前と特徴を伝え、ビンゴへの意欲を持たせる。 ・草花を見つかる喜びや自然のすばらしさを感じることができるように支援する。 ・草花を見つけたときには、その花の色や特徴を簡単な日本語で伝えるようにする。 ・ヨモギの匂いを嗅ぐなど、五感を使った体験的な活動も取り入れる。 ・体験の中で感じたことを母語や日本語で表現するよう促す。

○見つけた草花を画用紙に工夫しながらまとめる。 ・見つけた草花を画用紙に見やすく並べる。 ・画用紙に貼り付けた草花の名前を、ひらがなを使って丁寧に書く。 ○春の草花見つけの感想を発表する。 ・気持ちを表すカードの中から、気持ちを選択する。 ・「〇〇がたのしかった。」「〇〇がうれしかった。」などの気持ちを表す言葉を使って、感想を発表する。	・草花の色や名前、特徴などについて、児童と対話する。 ・対話の中で、「並べる」「貼る」などの用語が理解できるよう支援する。
---	--

B：日常会話に参加しはじめる（ステージ2～3）

6年 日本語「身近な人に手紙を書こう」 取り出し指導



自分が用いる「言語」と自分の「からだ」の部位とを結びつけて考える活動を通して、自分自身がどんな人間なのか、また何を感じ何を考えているのかを表現します。

私にとって、「足」は「英語」のイメージです。なぜなら、最初に覚えた言葉だからです。

◇指導や支援のポイント

この単元は、身近な人に想いを伝えるというクラス活動の一環で、最終的な活動目標は「身近な人に手紙を書く」ことです。手紙を書くにあたり、周りの人々との出会いや今までの自分を振り返るという作業を通して、多言語環境で過ごしてきた児童にとって言語とはどのような存在かについても考えます。この単元では①自分の使っている言語を、体の部位に置き換えて表現する「言語ポートレート」と、②これまでの人生で使ってきた言語と周囲の人との関係を、自分史年表に書き込む「言語マップ」の活動を取り入れることで、次のようなメリットが期待できます。

- ・過去と現在の自分と「言語」や「周りの人々」との関係について可視化する活動を通して、より深く自分について知り、考え、表現することができるようになる。
- ・母語（や英語）で年齢相応レベルの思考活動をする場を作り出せる。
- ・自分自身の考えを表現するのに必要な日本語を学習できる。
- ・苦手とする「話す」「書く」力を目的に応じて使いながら、伸ばすことができる。
- ・形式的な手紙ではなく、身近な人（両親等）に本当に「伝えたいこと」を引き出すことができる。

◇対象の児童

フィリピンから来日し9ヶ月で。母語はタガログ語で、フィリピンの小学校では、英語で学習してきた。日本語は、教師がやさしい日本語でゆっくり話すと内容を聞きとることができ、ほぼ理解できる。

【DLA 結果】

- | | | |
|----------------|-------------|-------------|
| ●語彙力チェック・・・70% | ●話す・・・ステージ3 | ●読む・・・ステージ2 |
| ●書く・・・ステージ2 | ●聴く・・・ステージ3 | |

◇本時の目標

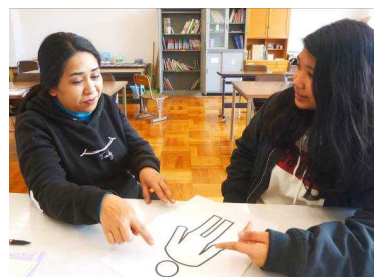
自分が使う「言語」が、自分にとってどんな意味があるのかを考えることができる。

◇授業の流れ ※本時:1/5

- 1 本時のめあてを確認する。

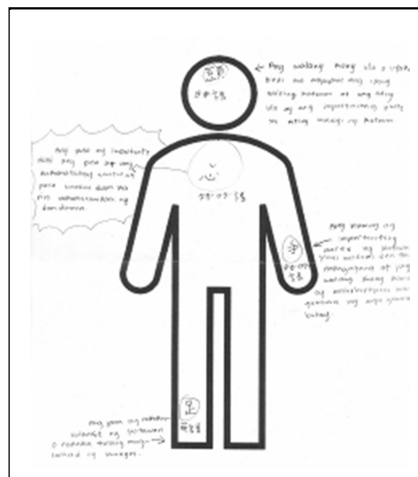
めあて　自分が使う言語について考えよう。

- 2 児童自身がどんな時に、何語を使うかを確認する。
「Aさんは、うちでお母さんと話す時、何語を使う？」



- 3 体の部位が自分にとってどんなイメージかを母語で考える。

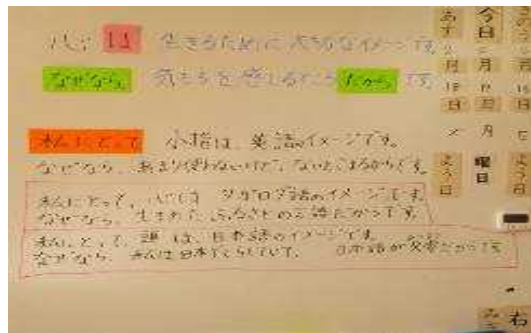
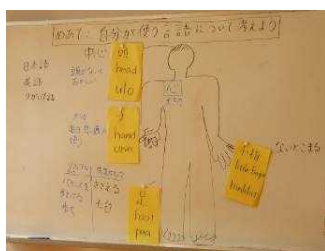
- 子ども多文化共生サポーターの考えを例示してもよい。
「先生にとって「足」は体を支えるもの、「土台」です。」
- 子ども多文化共生サポーターと母語で話し合いながら、体の部位のイメージが明確になるよう支援する。
- プリントに体の部位のイメージと理由を母語で書き込むよう促す。



- 4 日本語で説明する。
「わたしにとって「足」は歩くためのもの、バランスを助けるものです。」

- 5 体の部位が、どの言語のイメージにあたるのかを母語で考える。
- ・児童の考えがまとまらないときは、選択肢を与え、考えやすくする。
 - ・教師が文型を使って、例示する。
- 「わたしにとって、「小指」は英語のイメージです。なぜなら、小指はあまり使わないけど、なくてはならないものだからです。」

- 6 発表する。
- ・児童の日本語での発言を拾ってつなげ、板書し、児童の発表を支援する。
「私にとって「心」はタガログ語のイメージです。なぜなら、生まれたふるさとの言語だからです。」
 - ・児童の考えの良いところをほめる。
- 



第6学年 日本語指導

1 単元名 身近な人に手紙を書こう

2 ねらい

- ・タガログ語、英語、日本語が自分にとってどんな意味があるのかを考えることができる。
- ・「私にとっては、(体の部位)は〇〇語のイメージです。なぜなら～からです。」の表現を使って、自分の考えを話すことができる。

3 指導計画 全5時間

- ・1～3時間目：自分自身と向き合い、「言語ポートレート」「言語マップ」を作成する。
- ・4～5時間目：身近な人に想いを伝える手紙を書く。

4 展開〔本時 1/5〕

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
〇思い出に残っていることを話す。 Q：日本に来て、もうすぐ1年ですね。 あと1カ月で卒業です。日本の小学校に来て楽しかったこと・おもしろかったことは、何ですか。	・日本語で話すことが難しそうな場合は、母語を使っていいことを提示する。 ・助詞の間違いがあったり、語彙や表現の誤用があれば教師の正しい日本語の文を聞かせ、児童が繰り返せるように支援する。
〇学習の見通しを立て、言語ポートレートを作成する。 めあて：自分が使う言語について考えよう。 (1) 自分がいつ、何語を使うか確かめる。 Q：Aさんは、お母さんと話すとき、何語ですか。 ・お母さんとはタガログ語。 ・フィリピンの友だちとは英語。 (2) 体の部位の名称をタガログ語と英語と日本語で確認する。 Q：(黒板に大きく人型を描いて、「足」をさしながら)日本語でここは「足」ですね。 (「頭」をさしながら)ここは？ ・頭。 Q：英語では？タガログ語では？ (3) 体の部位のイメージを考え、母語でイメージと理由をワークシートに書く。 Q：先生にとって、足は「しっかりと体を	・はっきり、ゆっくり話す。 ・本時のめあてを確認する。 ・「いつ」「だれと」「何語」で話しているかをはっきりさせる。 ・作成は母語、発表は日本語で行う。 ・英語、タガログ語、日本語で、体の部位の名称が書かれた紙を準備しておく。 ・児童の日本語のレベルに合わせて、体の部位の名前を確認する。 ・教師の説明が難しい場合は、子ども多文化共

支えるもの」つまり「土台」のイメージです。頭は「中心」です。小指は「たまに使うもの」「ないと困るもの」です。Aさんにとって足はどんなイメージですか。それはなぜですか。 (子ども多文化共生サポーター)：(説明) ・(児童の発言を子ども多文化共生サポーターがタガログ語⇒日本語に訳す) Q：なるほどね。では、このプリントに体の場所のイメージを書いてください。タガログ語でいいですよ。 (4) 母語で書いたイメージと理由について、日本語で話す。 ・私にとって「頭」は「なくてはならないもの」というイメージです。なぜなら、いつも使うものだからです。 (5) 体の部位が何語にあてはまるか考える。 Q：どの言語が体のどこのイメージかを考えましょう。先生は、日本語と少し英語を話します。「足」は先生にとって「体を支えるもの」と言いました。支えるイメージは、日本語です。 Aさんは、足は～と言いましたね。 Aさんにとって～なイメージは、タガログ語？英語？日本語？ ・英語。 Q：そうなんだ。(板書) では、頭は？	生サポーターに通訳の支援をしてもらう(ただし、通訳支援は最小限に)。 ・視覚支援(人型の画)、具体例の提示、はっきり話すことで理解を促す。 ・「～だからです」と日本語で言えるよう支援する。 ・話し合いを通して、考えが明確になったら、プリントに書くよう促す。 ・理由がしっかり書けるよう支援する。 ・教師が先に見本を見せる。 ・母語で記入したワークシートを見ながら、「わたしにとって、(体の部位)は…のイメージです。なぜなら…だからです。」の表現を使って、日本語で説明する。 ・完全な日本語の文にならないときは、待ったり、文をつなげたりしながら支援し、正しい日本語で板書する。 ・必要に応じて、子ども多文化共生サポーターの支援も得る。
○体の部位と言語のイメージ、その理由を日本語で発表する。 ・私にとって「心」はタガログ語のイメージです。なぜなら、生まれたふるさとの言語だからです。 ・私にとって「頭」は日本語のイメージです。なぜなら、私は日本で暮らしていて、日本語が必要だからです。 ・私にとって、「足」は英語のイメージです。なぜなら、最初に覚えた言葉だからです。	・「私にとっては、(体の部位)は〇〇語のイメージです。なぜなら～からです」の表現を使う。 ・児童の発言を正しい日本語の文で板書し、最後に児童に読み上げさせることで、定着を図る。 ・本時の良かったところを褒める。

第6学年 日本語指導

1 単元名 伝えよう！この絵本の魅力

2 ねらい

- ・タガログ語・英語で思考を促し、日本語での表出方法を知る。
- ・文化と言語が異なる児童同士が、共に学ぶ仲間として互いに理解を深め、尊重することができる。
- ・【タガログ語・英語・日本語】絵本の背景と魅力（フィリピンの植民地化と独立の歴史、差別と平等、共生）について話し合い、考えを深めることができる。
- ・【タガログ語】登場人物、本のあらすじについて詳しく話すことができる。【話す】
- ・【英語】語彙数の制限に合わせ、話の展開を要約することができる。【書く】
- ・【日本語】6年生にこの絵本の「展開の楽しさ」や「背景と魅力（フィリピンの植民地化と独立の歴史、差別と平等、共生）」が伝わるように紹介をすることができる。【話す】

3 指導計画 全12時間

- ・1～3時間目：学習の見通しを立てる。絵本（タガログ語・英語表記）を読む。
- ・4～7時間目：内容理解を深め、本の魅力を発見し、英語での要約や日本語の紹介文を作る。
- ・8～12時間目：日本語で本の紹介ができるよう練習し、発表する。

4 展開 [本時：7/12 前時の活動：英語で要約を書く。]

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○前時の学習をふりかえり、本時の学習の見通しを立てる。 ・前時に英語で書いた要約を読む。	・話の展開が思い出せるよう支援する。
○日本語であらすじを話す。	・ジェスチャーを使って話してよいことや、挿絵を見てよいことを伝える。 ・児童が話したあらすじを黒板に書く。 ・児童が「イステット...ペペが嫌い。」と助詞などが抜け正しい文を言えない場合は、教師は「そうだね。イステットは、ペペが嫌いだね。」と児童を肯定したり励ましたりしながら、正しい日本語（語彙や表現）が習得できるよう支援する。 ・児童が言いたいことがあっても文を作れずに、沈黙してしまう場合は、教師は待ち過ぎずに、教師が正しい文で支援する。児童にと

	って、あらすじを話すことは日本語のアウトプットの場合だけではなく、正しいインプットの場合でもある。 ・大切なあらすじが出てこなかった場合は、児童が言いたいことが全部終わった後に質問する。 〔例〕「ペペは、自分の町に帰ったね。帰ってから何をしたの。」など
○イステッド（主人公）の変化を考える。 （１）主人公の心の変化を確かめる。 ・嫌い→すごい人 など （２）なぜ変化したのか、理由を考える。 ・見た目より、やることが大事だから。 ・スペイン人のやり方がよくないから。 ・ペペは、みんなにやさしいから。	・この本の魅力である「人を見た目や〇〇人で差別するのは、よくない」や「自分だけでなく、みんなを大切にする」ところをイステッドの変化から気づくよう支援する。
○文章の構成を考え、紹介文を書く。 （１）どの順で書くと、聞く人にわかりやすいかを考える。 ・あらすじ ・フィリピンの植民地にされた歴史 ・本の魅力 （２）ワークシートに紹介文を書く。 （３）発表する。	・フィリピンのことをほとんど知らない６年生に紹介することを確認し、「あらすじ」と「フィリピンの歴史」「本の魅力」の順序を考えるよう促す。 ・選択が難しいときは、教師がモデルを示し児童がイメージしやすいようにする。 ・文章に間違いがあってもすぐに指摘せず、読み返し等で気づくよう支援する。

※絵本『Ang ambisyon ng Iyegang Iyegang』

フィリピンで独立運動を行った国民的英雄（革命家で医師でも作家でもある）のホゼ・リザールを題材に作られた話である。医者にとっての必須アイテムである「聴診器」（イステッドという名前）を主人公とし、イステッドから見たホゼ・リザールやフィリピンの社会や人々について語られている。見た目や先入観からの人種差別、フィリピンの植民地化と独立の歴史、共生について考えさせられる１冊である。

C：日常会話はある程度できるが、学習内容によっては、授業に参加することが難しい（ステージ3～4）

1年 学級活動「やさいはすごいぞ」 取り出し指導



五感を使って学ぶ食育に「日本語基礎」プログラムを取り入れることで、食べ物の名前、色、味などの多くの言葉を、体験を通して楽しみながら理解します。

身近な食べ物である「やさい」について学ぶことで、食生活を見直すきっかけにもなります。

◇指導や支援のポイント

野菜の名前を覚えるだけでなく、野菜をさわったり食べたりすることで、ものをさわったときの様子を表す言葉や味を表す言葉など、様々な日本語の言葉を実感を伴いながら理解させることができます。また、栄養教諭と連携することで、より楽しくわかりやく野菜のはたらきについて学ばせることができ、給食や家庭で野菜を食べようとする意欲を持たせることができます。

◇対象の児童

＜A児＞ 教師の話聞いて一部を理解することができる。手を挙げて自分の考えを日本語と母語を使って発表しようとするなど、意欲的に学習に取り組んでいる。ひらがなを読むことはできるが、書くことはできない。

【DLA 結果】 ●語彙力チェック・・・日本語13%（タガログ語76%、英語10%）

＜B児＞ 教師の話聞いておおよその内容を理解し、意欲的に学習に取り組むことができる。ひらがなの読み書きはできるが、作文や感想などの文章を書くことはできない。

【DLA 結果】 ●語彙力チェック・・・日本語75%（タガログ語40%、英語25%）

◇本時の目標

- ・野菜のはたらきについて知り、野菜を進んで食べようとする意欲を持つことができる。
- ・自分が食べたいみそ汁の具材を考え、ワークシートに書くことができる。
- ・物をさわったときの様子を表す言葉や、食べたときの味を表す言葉を使って、自分が感じたことを表現することができる。

（例）触ったとき・・・ざらざら、つるつる、でこぼこ、かたい、やわらかい
食べたとき・・・あまい、からい、にがい、すっぱい、しょっぱい

◇授業の流れ

- 1 知っている野菜を発表する。
- 2 手ざわりで野菜をあてる。
 - ・野菜によって形や手ざわりがちがうことを楽しみながら、ボックスの中に入っている野菜の名前を当てるよう支援する。
 - ・さわったときの様子を表す言葉を使って、自分の感じたことを表現するよう促す。
「はくさいだと思います。ざらざらしています。」
「だいこんだと思います。長細くてつるつるしています。」



- 3 野菜を食べると体にどんなよいことがあるかを考える。
 - (1) 野菜のはたらきについて栄養教諭の話を聞く。
 - ・野菜のはたらきをワークシートにまとめるよう促す。

- | |
|---------------------------|
| ①はくさい (かぜをひきにくくする) |
| ②にんじん (うすぐらいところでもめがよくみえる) |
| ③さつまいも (うんちがすっきりでる) |
| ④たまねぎ (ちをさらさらにする) |
| ⑤だいこん (たべたものをとかす) |



- (2) 大根おろし体験をして、それを味わう。
「大根おろしは、とてもからいです。」

- 4 自分が食べてみたい「やさいたっぷりのみそ汁」の具を考える。

- (1) 食べてみたい具をワークシートに書く。
 - ・野菜のはたらきを考えて、具が選べるよう支援する。
- (2) 自分の選んだ具を紹介する。
 - ・「〇〇だからです。」の表現を使って、自分が考えた具の理由を発表するよう促す。
「ぼくが選んだ野菜は、はくさい、にんじん・・・・です。」
理由は、はくさいはかぜをひきにくくするからです。」



- 5 「野菜たっぷりのみそ汁」を味わう。
 - ・野菜のはたらきをふりかえりながらみそ汁をおいしくいただき、その味を言葉で表現するよう促す。
 - ・絵本「やさいのおなか」の読み聞かせをする。
「さつまいもが甘くておいしいです。」
「はくさいがしゃきしゃきしています。」



- 6 感想を書いて発表する。

第1学年 学級活動 J S Lカリキュラム「トピック型」

1 単元名 やさいはすごいぞ

2 ねらい

- ・野菜の働きについて知り、野菜を進んで食べようとする意欲を持つことができる。
- ・自分が食べたいみそ汁の具材を考え、ワークシートに書くことができる。
- ・物をさわったときの様子を表す言葉や、食べたときの味を表す言葉を使って、自分が感じたことを表現することができる。

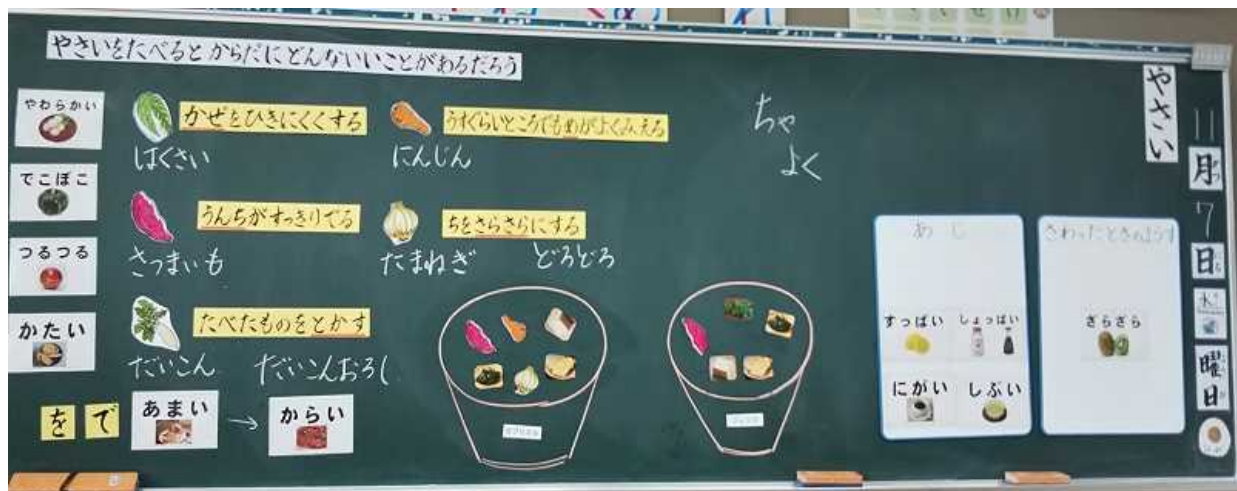
3 指導計画 全1時間

4 展開

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○知っている野菜を発表する。	
○手触りで野菜を当てる。 ①はくさい ②にんじん ③さつまいも ④たまねぎ ⑤だいこん ・野菜によって形や手ざわりがちがうことを楽しみながら体験する。	・野菜（実物）を準備する。 ・「言葉のカード」を用い、触ったときの様子を表す言葉を使って自分の感じたことを表現することができるよう支援する。
○野菜を食べると体にどんなよいことがあるかを考える。 Q:野菜を食べると体にどんなよいことがあるだろう。 ・野菜の働きについてゲストティチャーの話を聞く。 ①はくさい (かぜをひきにくくする) ②にんじん (うすぐらいところでもめがよくみえる) ③さつまいも (うんちがすっきりでる) ④たまねぎ (ちをさらさらにする) ⑤だいこん (たべたものをとかす) ・大根おろしを作って味わい、その味を表現する。 「だいこんおろしはとてもからいです。」 ・野菜の働きをワークシートにまとめる。	・野菜の働きを理解することができるよう支援する。

○自分が食べてみたい「やさいたっぷりのみそ汁」の具を考えて、ワークシートに書く。 (1) 食べてみたい具をワークシートに書く。 (2) 選んだ具を紹介する。 ・ぼくが選んだ野菜は、はくさい、にんじん・・・です。理由ははくさいはかぜをひきにくくするからです。	・野菜を一度に美味しく食べる食べ方にみそ汁があることに気づくよう支援する。 ・野菜の働きを考えて、みそ汁に入れる具を選ぶように助言する。 ・自分が食べたいみそ汁の具材を考え、ワークシートに書くことができるよう支援する。 ・「～だからです」の表現を使って、自分が考えた具の理由が発表できるよう支援する。
○野菜たっぷりのみそ汁を味わう。 ・野菜の働きをふりかえりながら、みそ汁をおいしくいただく。	・みそ汁を食べながら、野菜の味を言葉で表現するよう促す。
○感想を書いて発表する。	・さわったときの様子を表す言葉や、食べたときの味を表す言葉を使って感想を書くことができるよう支援する。

※板書



C：日常会話はある程度できるが、学習内容によっては、授業に参加することが難しい（ステージ3～4）

1 年 算数科「おおいほう すくないほう」 取り出し指導



二人一組でじゃんけんをして、勝ったらおはじきを2こ、引き分けのときは1こずつ取り合うゲームをします。そして、「〇〇は〇〇より〇こ少ない（多い）」という言葉を使って結果をまとめたり、発表したりすることで、楽しみながら数の大小の理解を深めていきます。

◇指導や支援のポイント

問題文は児童が理解しやすいように1文ずつ提示し、「わかっていること」「尋ねていること」を発表します。わかっている数字を数図ブロックに置き換えて黒板に提示したり、ワークシートに数字の数だけ〇の絵を描いたりすることで、「〇〇は〇〇より〇こ少ない」の言葉の意味を捉えるとともに、それを使って解き方を説明します。また、授業の後半に活用問題として「おはじきとりゲーム」をして、その結果を「〇〇は〇〇より〇こ少ない（多い）」という言葉を使って発表することで、楽しみながら数の大小の関係が理解できます。また、「〇こ少ない」を「〇〇こ負けた」と言い換えることにより、同じ意味を別の言葉で表現することを理解することができます。

◇対象の児童

<A児> 会話はあまり流暢ではなく、日常会話でよく使われる語彙や表現を使って話すことができるが、算数の問題文を読むことはできない。

【DLA 結果】

- 語彙力チェック・・・49% ●話す・・・ステージ3 ●読む・・・ステージ1
- 書く・・・ステージ1 ●聴く・・・ステージ3

<B児・C児> 流暢に日本語を話すことができる。問題文をつまみながらも読むことができる。しかし、数の大小の関係を表す日本語の表現「〇〇は〇〇より〇こ少ない（多い）」の意味については十分理解ができていない。

【DLA 結果】

- B児 ●語彙力チェック・・・89% ●話す・・・ステージ4 ●読む・・・ステージ3
- 書く・・・ステージ2 ●聴く・・・ステージ4
- C児 ●語彙力チェック・・・78% ●話す・・・ステージ4 ●読む・・・ステージ3
- 書く・・・ステージ2 ●聴く・・・ステージ4

◇本時の目標

- ・求小（小さい方を求める）の問題を、図などを使って求めることができる。
- ・「〇〇は〇〇より〇こすくない」という言葉を使って、求小（小さい方を求める）問題の考え方を説明することができる。

◇授業の流れ ※本時：2/2

- 1 前時の復習をする。
 - ・「おいほうのかず」を求めるときの数図ブロックの並べ方や式をふりかえるよう促す。

- 2 **【問題3】** どんぐりをたいきさんは 9 こひろいました。みさきさんは たいきさんより 2 こすくなかったそうです。みさきさんは なんこひろいましたか。

- (1) 題意をつかむ。

- ・問題文は一文ずつ、児童と対話しながら提示する。
- ・「～は～より□こすくない」の文に着目するよう促す。



- (2) 本時のめあてを確認する。

めあて：すくないほうのかずをかんがえよう

- (3) ワークシートに数図ブロックを並べ、答えを求める。

- ・ワークシートに数図ブロックを置いて、問題の数量関係（たいきが9こで、みさきが2こ少ない）を整理し、みさきの数を考えるよう支援する。



- (4) 考え方を発表する。

- ・数図ブロックを使いながら「〇〇は〇〇より〇こすくない」を使って、問題の考え方を説明するよう促す。
- ・たいきの数（多い方の数）から少ない数を引くと、みさきの数（少ない方の数）が出ることを確認する。

- 3 **【問題4】** おはじきとりをしました。みさきさんは 11 ことりました。たいきさんは みさきさんより 2 こすくないです。たいきさんは なんことりましたか。

- (1) 題意をつかみ、ワークシートに○の絵をかくて答えを求める。

「みさき ○○○○○○○○○○○○ 11 こ
たいき ○○○○○○○○○○ 2 こ少ない」

- (2) 考え方を発表する。

- ・「〇〇は、〇こまけた」という言葉を使って、考え方を説明するよう促す。
- ・母語でも説明するよう促し、母語力の向上を目指す。
「みさきの数は11こで、「たいきさんは2こまけた」から、答えは9こです。」



- 4 おはじきとりゲームをする。

- ・「〇〇は〇〇より〇こ少ない（おい）」を使って、ゲームの結果をワークシートにまとめ、発表するよう促す。

第1学年 算数科

1 単元名 おおいほう すくないほう

2 ねらい

- ・小さい方の数量を求める問題を図などを使って考えることができる。
- ・小さい方の数量を求める問題を解くことができる。
- ・「～は～より□こすくない」という言葉を使って、求小（小さい方を求める）問題の考え方を説明することができる。

3 指導計画 全2時間

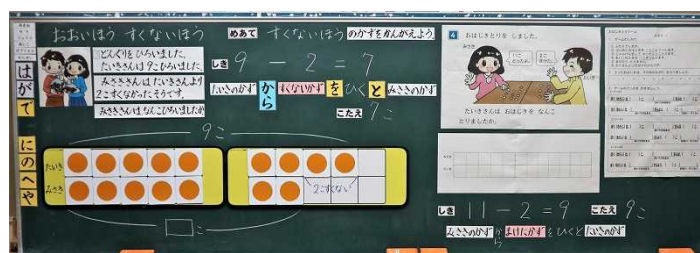
- ・1時間目：大きい方を求める問題
- ・2時間目：小さい方を求める問題

4 展開 [本時：2/2]

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○前時の復習をする。	・「おおいほうのかず」を求めるときの数図ブロックの並べ方や式をふりかえる。
どんぐりをひろいました。たいきさんは9こひろいました。 みさきさんはたいきさんより2こすくなくったそうです。 みさきさんはなんこひろいましたか。 ○問題の意味を考える。 (1) どんぐり拾いの体験を話す。 (2) 問題文を読んでわかっていることや、尋ねていることを発表する。	・どんぐりひろいをしたときのことが思い出せるよう支援する。 ☆問題文を一文ずつ提示しながら、わかっていることや尋ねていることを児童と対話しながら確認し、問題を解いてみたいという気持ちになるよう働きかける。(しかけ①) ・「～は～より□こぶん少ない」という表現から、みさきの方が少ないことに気づかせる。
○めあてを確認する。 (すくないほう)のかずをかんがえよう ・自分で答えを考えてみる。	・ワークシートを活用する。 ・数図ブロックを置いて、問題の数量関係（たいきが9こで、みさきが2こ少ない）を整理しながら、みさきの数を考えられるよう支援する。 ・数図ブロックを正しく並べることができない児童には、問題文や図を使って対話しながら支援をする。

○考えを話し合う。 ・考え方を発表する。 ・式を使って答えを求める。	☆数図ブロックを使って、小さい方を求める問題の考え方を説明できるよう支援する。(しかけ②) ・「～は～より□こすくない」という言葉を使うよう促す。 ・図を使って考えることができるよう支援する。
○練習問題をする。 おはじきとりをしました。 みさきさんは 11 ことりました。 たいきさんはみさきさんより 2 こすくない。 だいきさんは なんことりましたか。 (1) 問題の意味を考える。 (2) ●の絵を描いて答えを求める。 (3) 式と答えを書く。 (4) 考え方を発表する。	・「2 こまけた」という表現を用い、たいきの方が少ないことに気づかせる。 ・●を正しく描けない児童や、答えがわからない児童には、問題文や図を使って対話しながら支援をする。 ・「11」みさきの数、「2」まけた数、「9」たいきの数を確認する。 ・みさきの数(多い方の数)からまけた数を引くと、たいきの数(少ない方の数)が出ることを確認する。 ☆数図ブロックを使って小さい方を求める問題の考え方を説明させる。(しかけ②)
○おはじきとりゲームをする。 二人一組でじゃんけんをして15こ(19こ)のおはじきを取り合う。 勝ったら2こ、あいこは1こずつおはじきを取る。たくさん取った方の勝ち。 (1) 二人組でゲームをする。 (2) ゲームの結果を書いて発表する。	☆ゲームでおはじき(具体物)を取り合い、取った数を比べることで、楽しみながら数の大小の関係が捉えられるよう支援する。また、「～は～より□こ少ない(おおい)」という言葉を使ってゲームの結果をまとめたり、発表するよう促す。(しかけ③)
○本時の学習をふりかえる。 (1) 今日のポイントを確認する。 (2) 感想を発表する。 ・楽しかったです。訳は… ・嬉しかったです。訳は…	・「気持ちを表すことば」を提示し、自分の気持ちとその訳を発表させる。 ・時間があれば「チョンクラック」(インドネシアの遊び)を使って、貝の取り合いをする。

※板書



C：日常会話はある程度できるが、学習内容によっては、授業に参加することが難しい（ステージ3～4）

1 年 国語科「ことばあそびうたを つくろう」 在籍学級



「うさぎは、ふわふわです。」
「うさぎは、もふもふだと思います。」

実物を見たり、さわったりすることで様子を表す言葉を考えます。また、「〇〇は、〇〇〇です。」
「〇〇は、〇〇〇だと思います。」という文型を示すことで、自信を持って自分の考えを発表します。

◇指導や支援のポイント

うさぎ（動物）、せんべい（食べ物）、ボール（道具）などの実物を見せたりさわらせたりすることで、イメージ豊かに言葉を想像できるようにします。そして、身の回りの様子を表す言葉（擬声語・擬態語）を集め、言葉遊び歌を作ろうとする意欲を持つことができます。

また、児童が、「うさぎは、ふわふわです。」と発言したときに、「うさぎの他にふわふわなものを知っていますか？」と問い返すことで、言葉の世界を広げていくことができます。このように教師と児童との対話の中に、問い返しなどの工夫した発問を入れることも支援の一つです。

◇対象の児童

対象児童は1名。流暢に日本語で友だちと会話することができる。日常会話でよく使う単語や定型表現、基本文型などを使って書くことができる。ひらがなで書かれた短文を読むことはできる。在籍学級で教師の話が理解できないときは、「わかりません。」と尋ねることができる。

【DLA 結果】 ●語彙力チェック・・・日本語 82%（母語：ポルトガル語 67%）
●話す・・・ステージ 4

◇本時の目標

- ・言葉遊び歌を楽しみながら、進んで活動できる。
- ・具体物から擬声語・擬態語を想像して言葉遊び歌を作ることができる。
- ・音や様子を表す言葉（擬声語・擬態語）の意味を理解することができる。
- ・「〇〇は〇〇だと思います。」「〇〇は〇〇です。」の文型を使って、自分の考えた音や様子を表す言葉を発表することができる。

◇授業の流れ

- 1 今日の学習内容とめあてを確認する。

おとやようすをあらわすことばをあつめて、じぶんのすきなことばあそびうたをつくろう

- 2 色々なものから想像できる音や様子を表す言葉を考え発表する。

- ・りんごやせんべいの実物を見せたり、触ったりさせて、イメージ豊かに音や様子を表す言葉が想像できるよう支援する。
- ・「〇〇は〇〇だと思います。」「〇〇は〇〇です。」の文型を黒板に提示する。
「りんごは、つるつる（しゃきしゃき）だと思います。」
「うさぎは、ふわふわです。」



- 3 言葉遊び歌を作る。

- (1) ワークシートに言葉遊び歌を書く。

- ・集めた擬声語や擬態語をつなげて、言葉遊び歌を作るように促す。
- ・よりたくさんものから音が想像できるように、テーマを絞らず自由に書くよう促す。
- ・書けていない児童には、机間指導で児童と対話しながら助言をする。



【例】 ・ふわふわ うさぎ ・にゃあにゃあ ねこ ・ぱたぱた ちょうちょ
・しゅわしゅわ コーラ ・ころころ ボール

- (2) 作った言葉遊び歌を発表する。

- ・聞く人がよくわかるように、ゆっくり大きな声で発表するように助言する。



- 4 授業をふりかえり、感想を発表する。

「色々な言葉を使って、言葉遊び歌を作ることができて良かったです。」

第1学年 国語科

1 単元名 ことばあそびうたをつくろう

2 ねらい

- ・言葉遊び歌を楽しみながら、進んで活動できる。
- ・具体物から擬声語・擬態語を想像して言葉遊び歌を作ることができる。【書く】
- ・音や様子を表す言葉（擬声語・擬態語）の意味を理解することができる。
- ・「〇〇は△△だとおもいます。」「〇〇は△△です。」の文型を使って、自分の考えた音や様子を表す言葉を発表することができる。

3 指導計画 全6時間

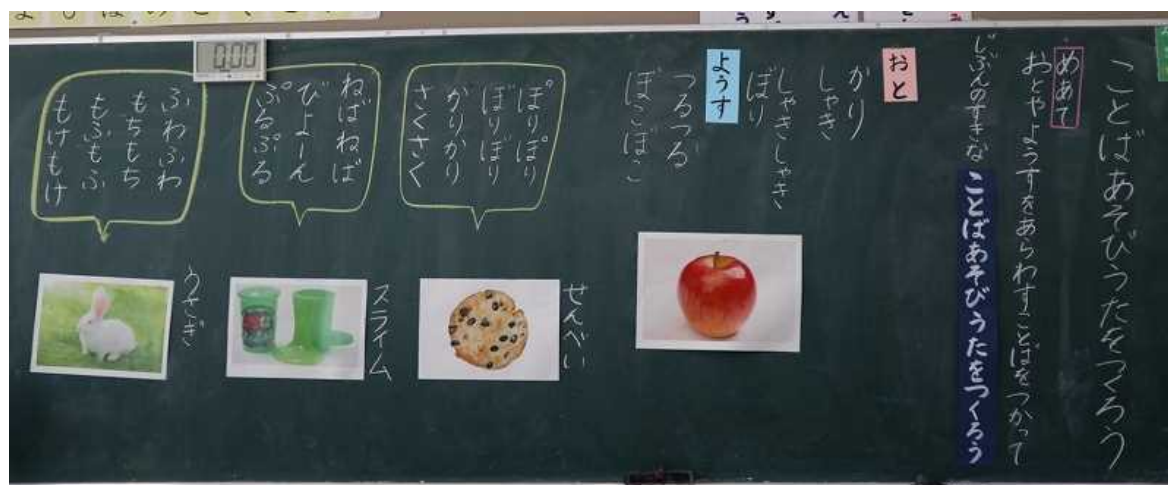
- ・1時間目：学習の見通しを立てる。
- ・2～5時間目：教科書の言葉遊び歌を読んで、擬声語・擬態語を用いた言葉遊び歌を作る。
- ・6時間目：自分が作った言葉遊び歌を発表して、感想を伝え合う。

4 展開 [本時：3/6]

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○本時の学習内容や目当てを確認する。 おとやようすをあらわすことばをあつめて、じぶんのすきなことばあそびうたをつくろう。	
○色々なものから想像できる音や様子を表す言葉を考え、発表する。 ・「わたしは、〇〇は△△だとおもいます。」という文型を使って発表する。 (例) せんべい…パリパリ、ぼりぼり	・音を想像しやすいように実物を見せたり触らせたりして確認させる。 ・文型カードを準備しておき、発表しやすいよう支援する。 ・音や様子を表す言葉（擬声語・擬態語）の意味を理解できるよう支援する。
○ワークシートに言葉遊び歌を書いて発表する。	・集めた擬声語や擬態語をつなげて、言葉遊び歌を作るよう促す。 ・具体物から擬声語・擬態語を想像して言葉遊び歌を作ることができるよう支援する。 ・よりたくさんものから音を想像するために、テーマを絞らず自由に書くよう促す。 ・擬声語・擬態語と物の名前を入れ替えても良いことを伝え、児童が工夫できるようにする。

	・書けていない児童には、机間指導で助言する。
○ 本時の振り返りをする。	・自分や友だちの作った言葉遊び歌を楽しんだことを振り返らせる。 ・次時は、テーマを絞って自分だけの言葉遊び歌を作ることを伝える。

※板書



第2学年 国語科

1 単元名 かさこじぞう

2 ねらい

- ・じいさまが地蔵様にしたことを読み取り、じいさまの地蔵様に対する気持ちを想像し、おもしろい（いいな）と思ったところを見つけ、ワークシートに書くことができる。
- ・「なでました」「むすんであげました」などの言葉に気をつけながら、じいさまが地蔵様にしたことを動作化することで、じいさまの地蔵様に対する気持ちを考えることができる。

3 指導計画 全16時間

- ・先行学習：「かさこじぞう」のリライト教材を読む。
- ・1～3時間目：学習の見通しを立てる。「かさこじぞう」の場面を分ける。
- ・4～11時間目：人物の様子や気持ちを読み取ったり想像したりし、おもしろい（いいな）と思うところを見つける。
- ・12～16時間目：おもしろいところを紹介カードに書き、紹介しあう。

4 展開 [本時：6/16]

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○前時までの学習をふりかえり、本時のめあてを確認する。 第三場面を読んで、おもしろい（いいな）と思うところを見つけよう。	・「単元全体の学習の流れ」を掲示し、本時の学習内容を確認する。
○第三場面の劇を見たり、教師の範読を聞いたりする。 （1）前半部分の教師の劇を見る。 （2）後半部分の範読を聞く。	・第三場面の前半部分を教師とフォリナーサポーター（母語支援者）が劇をすることで、第三場面の情景を児童にイメージ豊かに想像できるよう支援する。 ・第三場面の後半は児童が劇をすることを伝える。 ・じいさまが地蔵様に何をしたかに着目しながら、後半の範読を聞くよう促す。
○第三場面後半の劇をする。 （1）じいさまが地蔵様にしたことを発表する。 （2）じいさまと地蔵様の役になって劇をする。 ・劇に向けて音読の練習をする。 ・「そうじゃ。このかさこをかぶってくだ	・児童の発表に合わせてじいさまが地蔵様にしたことを書いた短冊を黒板に掲示し、順序が正しく捉えられるよう支援する。

され。」などのじいさまの会話文も確認する。	
○地藏様にかさこをかぶせて帰っていくときのじいさまの気持ちを想像して発表する。 ・「なでました」「むすんであげました」などの言葉の意味を教えるから動作化するのではなく、まず児童が動作化し、この動きでよかったのかを考える。 ・じいさまの役が終わった児童は、動きや会話文の読み方でよかったところを伝える。	・動作化させることで、場面の様子を読み取ることができるよう支援する。 ・じいさまの動きや会話について、児童がお互いにアドバイスしながら劇ができるように支援する。 ・「嬉しい」「悲しい」などの気持ちを表すカードを黒板に掲示しておく。 ・じいさまが帰るときの挿絵や教科書の「やっと、安心しました」という言葉から、じいさまの気持ちを考えるよう促す。
○第三場面のおもしろい（いいな）と思ったところを見つける。 （１）おもしろい（いいな）と思ったところを見つけてワークシートに書く。 （２）発表する。 ・自分が見つけたおもしろいところを友だちに伝えることができるように、書いた文章を読む練習をする。 ・黒板の前で一人ずつ発表する。	・日本語よりも母語で考えた方が考えやすい児童には、フォリナーサポーター（母語支援者）が母語で児童に質問し、おもしろいところを母語を使って考える場を設定する。 ・日本語で考えることができる児童には、おもしろいところをワークシートに書いた後、母語でも言えるように支援する。 ・おもしろいところを見つけても、文章表現できない児童には、会話しながら児童が書きたいと考えていることを教師がメモをしていき、それを写すようにする。 ・文章に間違いがあってもすぐに指摘せずに、できるだけ間違いに自分で気づいて直すことができるように支援する。
○学習の感想を発表する。 ・三人で劇をして楽しかった。 ・じいさまはやさしいと思った。 ・（時間があれば）じいさまの様子や気持ちを想像しながら、第三場面を音読する。	・気持ちを表すカードを提示し発表の支援をする。 ・次時は在籍学級で第四場面のおもしろいところを見つけることを伝える。

第6学年 社会科

1 単元名 世界に歩み出した日本

2 ねらい

- ・日本が諸外国と不平等条約を結んだが、条約改正に向けて日本国内の動きが高まっていったことを理解することができる。
- ・ノルマントン号事件の風刺画から気づいたことやわかったことを説明することができる。
- ・事件の背景には、諸外国と結んだ不平等条約が関係していることを読み取ることができる。

3 指導計画 全8時間

- ・1時間目：産業の発展や欧米諸国に追いつこうとしている日本の様子を知り、学習問題を考え表現する。
- ・2～3時間目：不平等条約が日本にもたらした内容を知るとともに、条約改正に向けた動きが日本国内で高まっていったことを理解し、ノートなどに表現する。
- ・4時間目：日清戦争、日露戦争の2つの戦争に勝利したことが、日本の世界における地位向上につながったことを考え、ノートなどに表現する。
- ・5時間目：写真や地図から日本が朝鮮を植民地とし、朝鮮の人々のほこりを深く傷つけたこと等や小村寿太郎が条約改正を果たし、欧米諸国と対等な関係を築いたことを理解する。
- ・6～8時間目：日本の国力の充実や国際的地位の向上、それらにともなう社会の変化について考え、表現する。

4 展開 [本時：6/8]

学習活動・発問・児童の反応	指導上の留意点
○これまでの学習内容を振り返り、本時の学習内容を知る。 一枚の絵から、世界における日本の状況を読み取ろう。	・これまでの学習内容をまとめ掲示物を使って、世界と日本の関係を確認する。
○ノルマントン号事件の風刺画を見て、気づいたことや見つけたことをボードに書き込む。 (1) ペアで考える。 (2) 気づきを発表する。	・日本側、イギリス側の視点が明確になるように、色を2色に分けて、気づきを書き込むよう促す。 ・児童の気づきが視覚的に伝わるように、書画カメラをつかって発表するよう促す。
(3) 船長がおぼれている日本人に向かって話していることを想像してワークシー	・船長の左手の意味を理解しやすいように、その部分を拡大したものを画面に映す。

トに書く。	
○ 気がついたことを答えにして、問いをつくる。 ・なぜ日本人だけ助けてもらえなかったのだろう。 ・なぜ船長は、軽い罰ですんだのだろう。 (1) 問いに対する予想を考える。 ・イギリス人が日本人の立場を低くみていたから。 ・日本がイギリスと不平等条約を結んでいたから。 (2) 問いに対する答えを教科書・資料集からみつける。	・問いという言葉を意識させるために、「なぜ～だろう」の形で考えるよう促す（話型カードの提示）。 ・～のため、～だからという話型を使って、考えの根拠を明確にできるよう支援する（話型カードの提示）。 ・答えとなる部分がわかるように、赤線を引くよう促す。
○ノルマントン号事件をきっかけに不平等条約改正への世論や動きが高まっていったことを知る。	・条約改正に関する当時の新聞記事を資料として提示し、改正に向けた国民の声や思いを印象付ける（条約改正の意味支援カードの提示）。 ・学習言語の意味理解のために、「条約＝決まり・約束」「改正＝変える」のカードを提示する。
○本時の学習でわかったことをまとめる。 ○次時の学習内容を知らせる。	・本時の学習でキーワードになる「外国」「不平等条約」「条約改正」この3つの言葉を使って、まとめることができるよう支援する（キーワードの提示）。

※板書

